

平成21年度  
伊勢湾再生に向けた主な取り組みについて



## 平成21年度 伊勢湾再生に向けた主な取り組みの報告

表1 平成21年度取り組み状況の報告一覧

機関	NO	タイトル	実施機関
国	11	24時間水質自動観測システム	中部地整 港湾空港部
岐阜県	25	第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～の取り組み	岐阜県 農政部
	29	「農地・水・農村環境保全向上対策（共同活動支援交付金）」の実施	岐阜県 農政部
愛知県	35	三河港 御津地区覆砂の実施	愛知県 建設部
	37	海岸保全計画に基づく「海岸環境整備事業」の実施	愛知県 建設部
三重県	60	伊勢湾沿岸域における底質調査	三重県 環境森林部
	63	～想いをかたちに～ 宮川プロジェクト	三重県 政策部
名古屋市	71	緑化地域の指定	名古屋市 緑政土木局
	76	堀川市民調査	名古屋市 緑政土木局

全ての取り組み個票(完了含む)は、参考資料1に整理している。

# 【伊勢湾再生のためのモニタリング】 『環境監視及び汚濁機構の解明に寄与する取り組み』

中部地方整備局港湾空港部

## 24時間水質自動観測システム

1. 目的：伊勢湾の汚濁機構解明に向けてシミュレーションモデルの精度向上に資する水質データの取得・蓄積を行うとともに、海生生物の大量死の原因となる貧酸素水塊の発生状況とその要因を連続的にとらえることを目的に、湾内主要地点において水質連続観測を実施するものです。
2. 過年度までの取り組み状況
  - ・平成19年・20年度 中山水道航路保全標識への観測装置設置
  - ・平成21年 3月：観測データを「伊勢湾環境データベース」で公表
3. 今年度の取り組み状況
  - ・伊勢湾（狭義）側の主要3地点に24時間水質連続監視施設を設置し、平成22年度から観測を開始するとともに、取得データを公表します。
4. 取り組み結果・評価
  - ・モニタリングしている項目は、表-1のとおりであり、取得されたデータは「伊勢湾環境データベース」でリアルタイムに見ることができます。

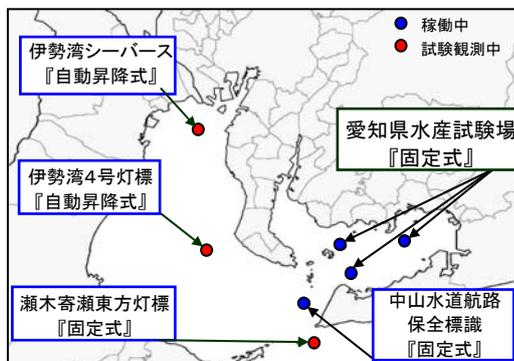


図-1 観測システム設置位置図

項目	伊勢湾シーバース	伊勢湾4号灯標	瀬木寄瀬東方灯標	中山水道航路保全標識
気温 [ ]	○	○	○	
水温 [ ]	○	○	○	○
風向 [°]、風速 [m/s]	○	○	○	○
潮位 [m]		○	○	
波高 [m]		○	○	○
流向 [°]、流速 [m/s]		○	○	○
塩分濃度 [PSU]	○	○	○	○
DO [mg/l]	○	○	○	○
クロロフィル-a [mg/l]	○	○	○	
濁度 [FTU]	○	○	○	

表-1 観測項目



写真-1: 伊勢湾シーバース  
(自動昇降式装置)



写真-2: 伊勢湾4号灯標



写真-3: 瀬木寄瀬東方灯標  
(固定式装置)

**【伊勢湾再生のためのモニタリング】**

**『環境監視及び汚濁機構の解明に寄与する取り組み』**

**中部地方整備局港湾空港部**

## **24時間水質自動観測システムの概要**

# 目的

中部地方整備局港湾空港部では、再生施策がどの程度環境改善に寄与するのかを長期的に予測する『伊勢湾シミュレーター』の作成に着手している。

伊勢湾・三河湾において海生生物の大量死の原因となる貧酸素水塊の発生状況とその要因を連続的にとらえらるとともに、伊勢湾・三河湾の汚濁機構解明に向けて『伊勢湾シミュレーター』の精度向上に資する水質データの取得・蓄積を行い、「浅場・干潟等造成計画」を作成することを目的に、湾内主要地点において24時間連続水質観測（モニタリングポスト）を実施するものです。

# 概要

## 『観測項目』

気温 [°C]、風向 [°]、風速 [m/s]、潮位 [m]、  
波高 [m]、流向 [°]、流速 [m/s]、水温 [°C]、  
塩分濃度 [PSU]、溶存酸素(DO) [mg/l]、  
クロロフィル-a [mg/l]、濁度 [FTU]が基本

## 『観測方法』

- ・ 自動昇降式（湾奥部、湾中部）  
1mピッチでの鉛直観測  
特に、湾中部に設置した「**観測機能付き航路標**  
**識**」による方式は“**国内初**”
- ・ 3層固定式（湾口部）  
上層、中層、下層の3層固定観測

## 『観測時間』

- ・ 1時間毎の連続観測が基本

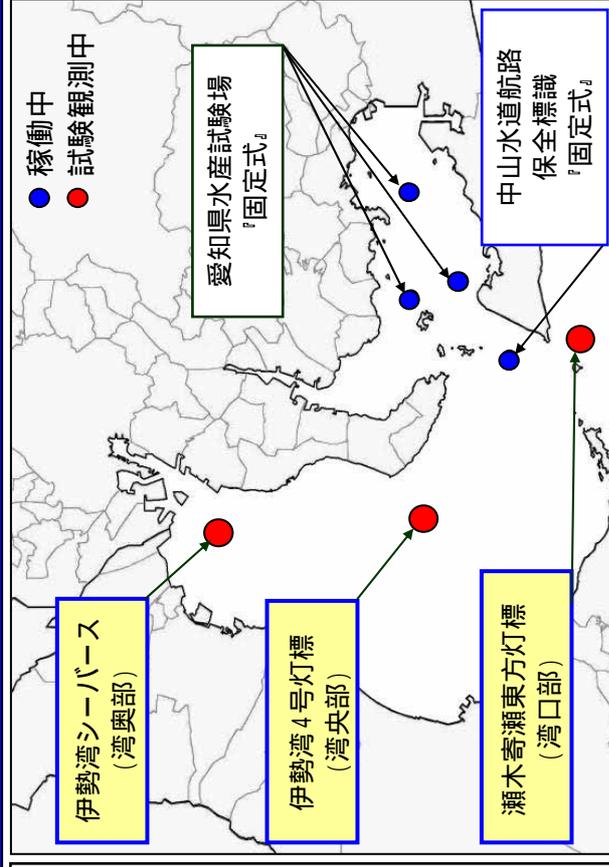
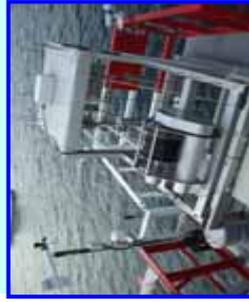
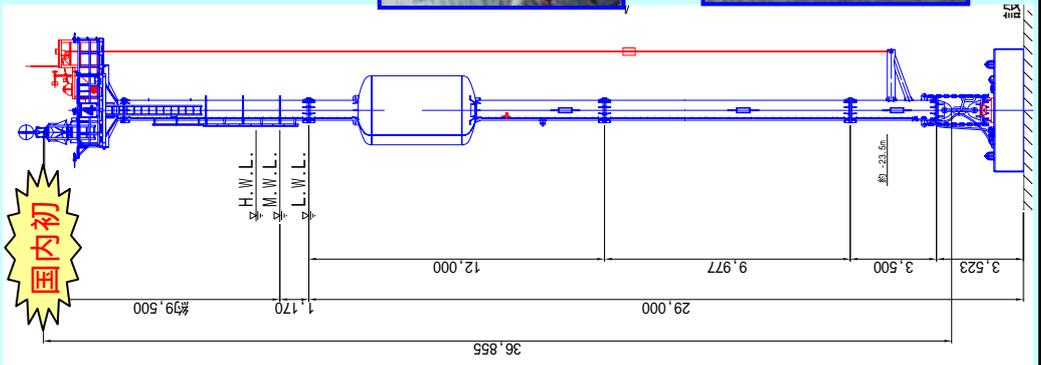


図-1 観測システム設置位置図

# 設置状況

『湾央部(伊勢湾4号灯標)(水深:約30m)』  
自動昇降式観測装置を搭載した観測灯標を設置  
(平成22年2月)

観測機能付き航路標識



昇降装置



昇降状況



水質観測器



波高計

『湾口部(瀬木寄瀬東方灯標)(水深:約30m)』  
固定式観測装置を設置(平成21年11月)



『湾奥部(伊勢湾シーバース)(水深:約25m)』  
自動昇降式の観測装置を設置(平成21年12月)

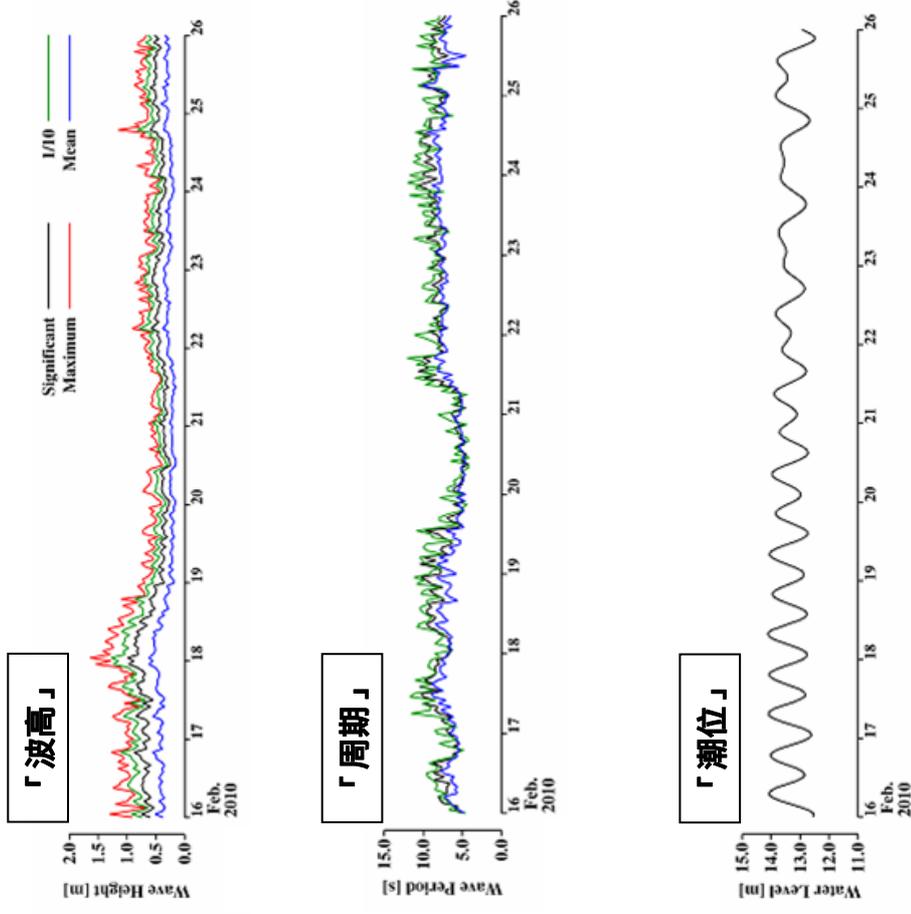
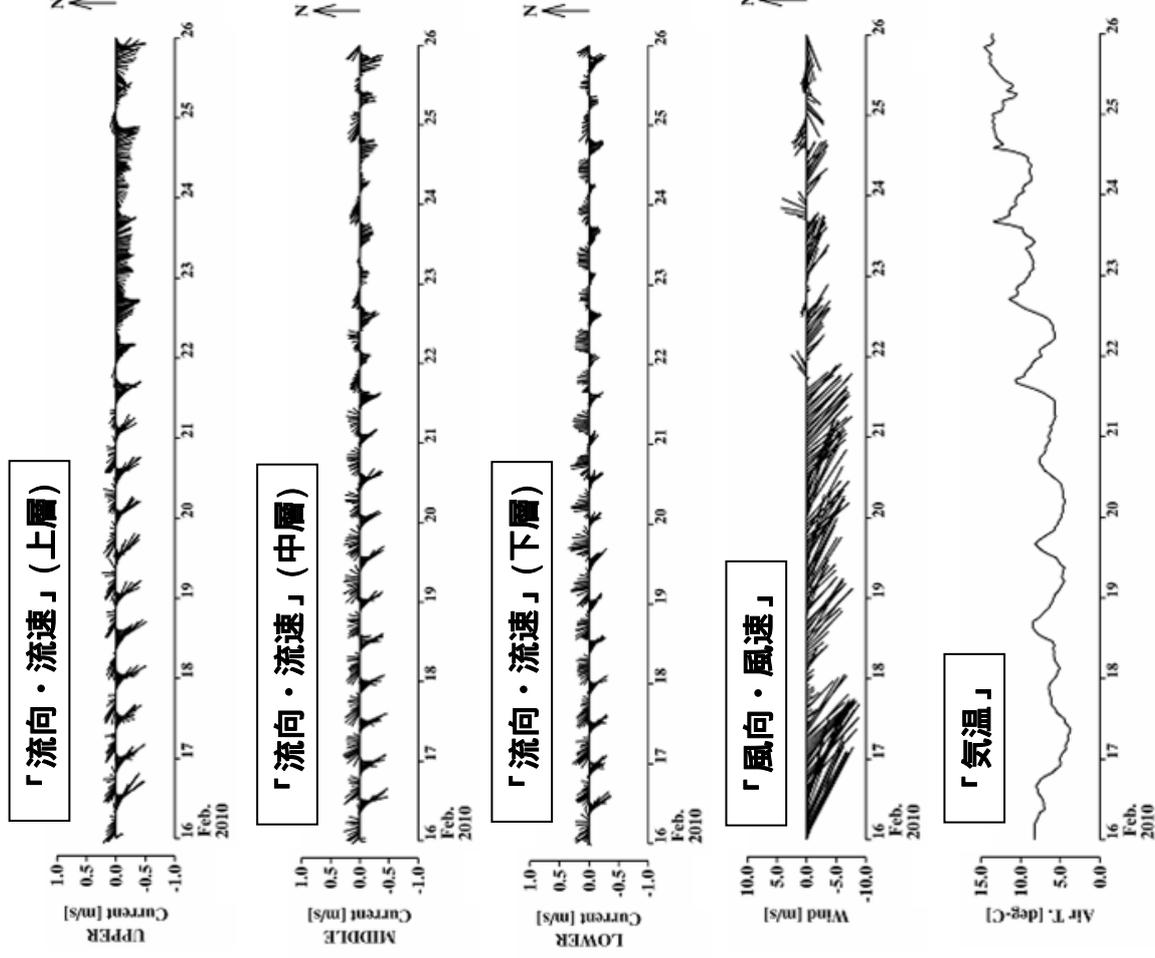


最深部(着底)

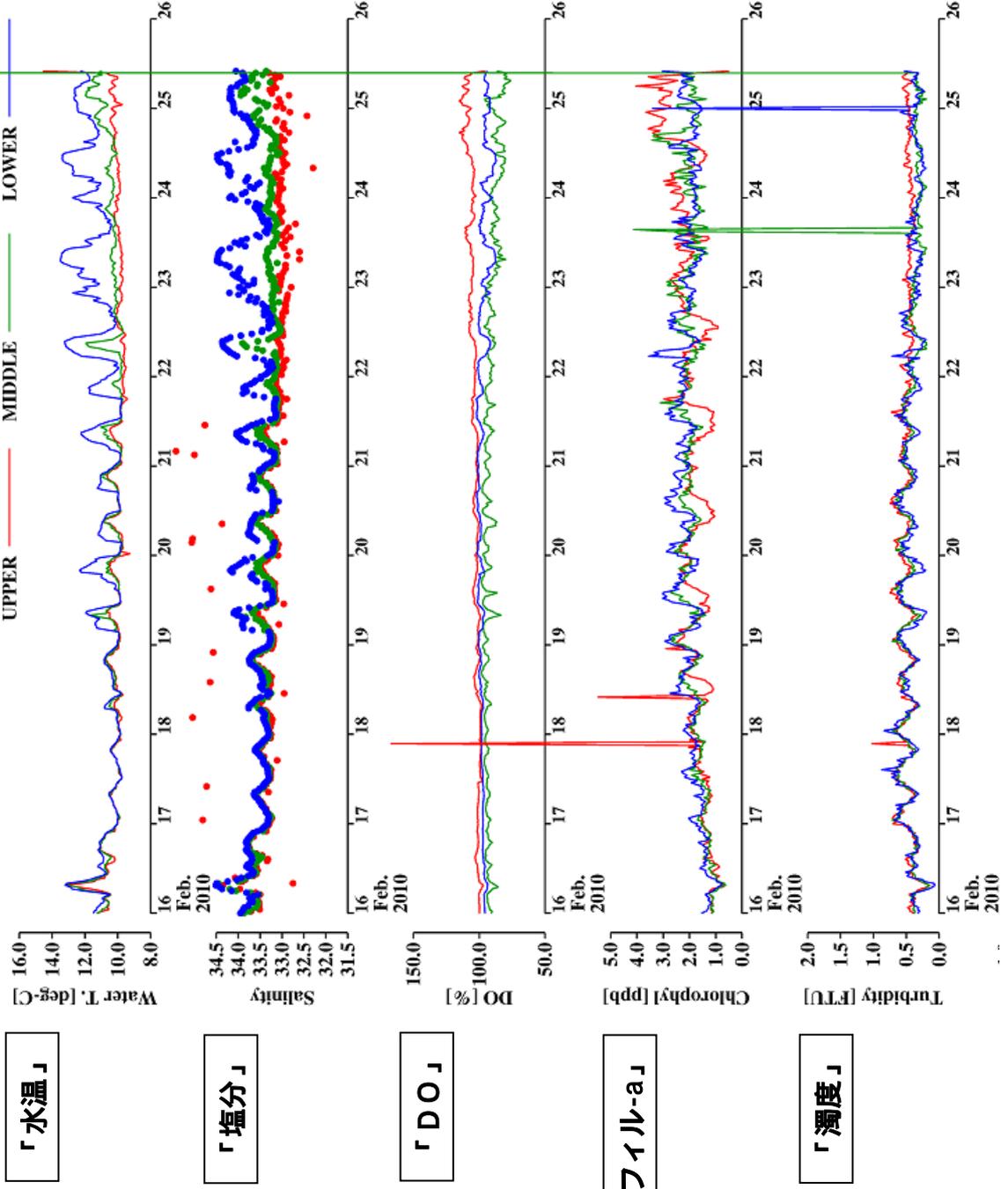


流向流速計

# 『湾口部（瀬木寄瀬東方灯標）』試験観測結果 【観測期間：平成22年2月16日～26日】

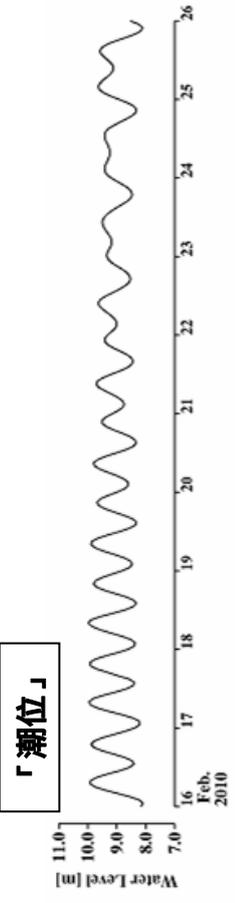
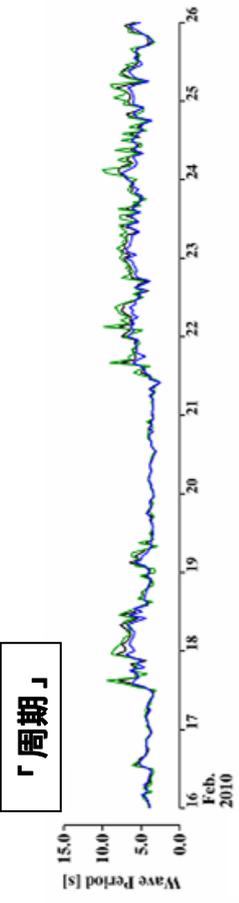
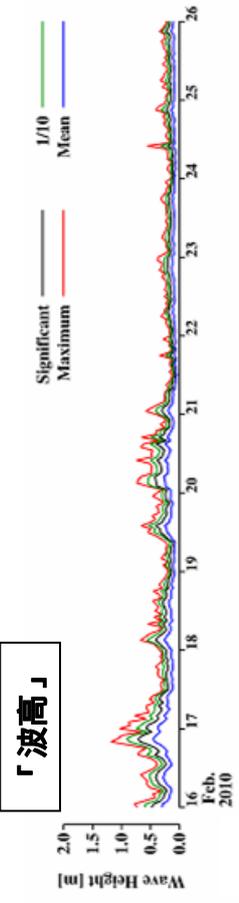
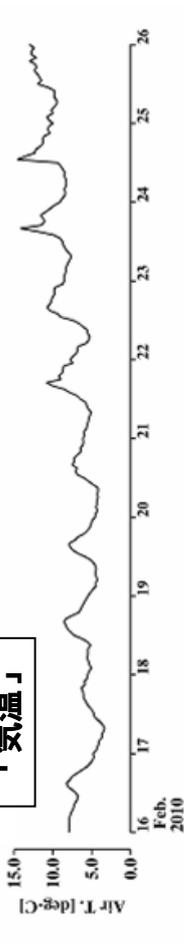
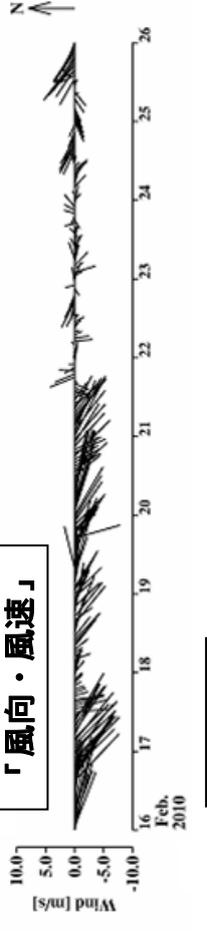
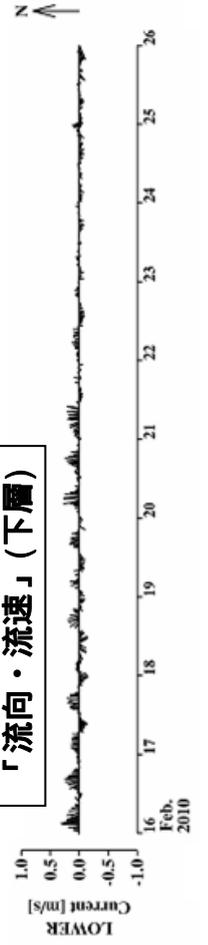
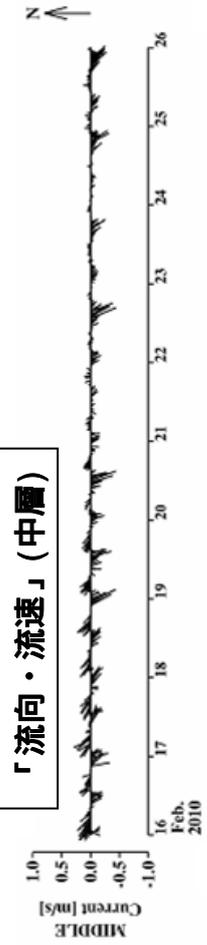
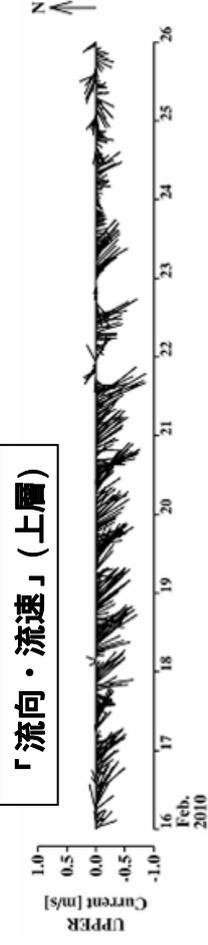


# 『湾口部（瀬木寄瀬東方灯標）』試験観測結果 【観測期間：平成22年2月16日～26日】



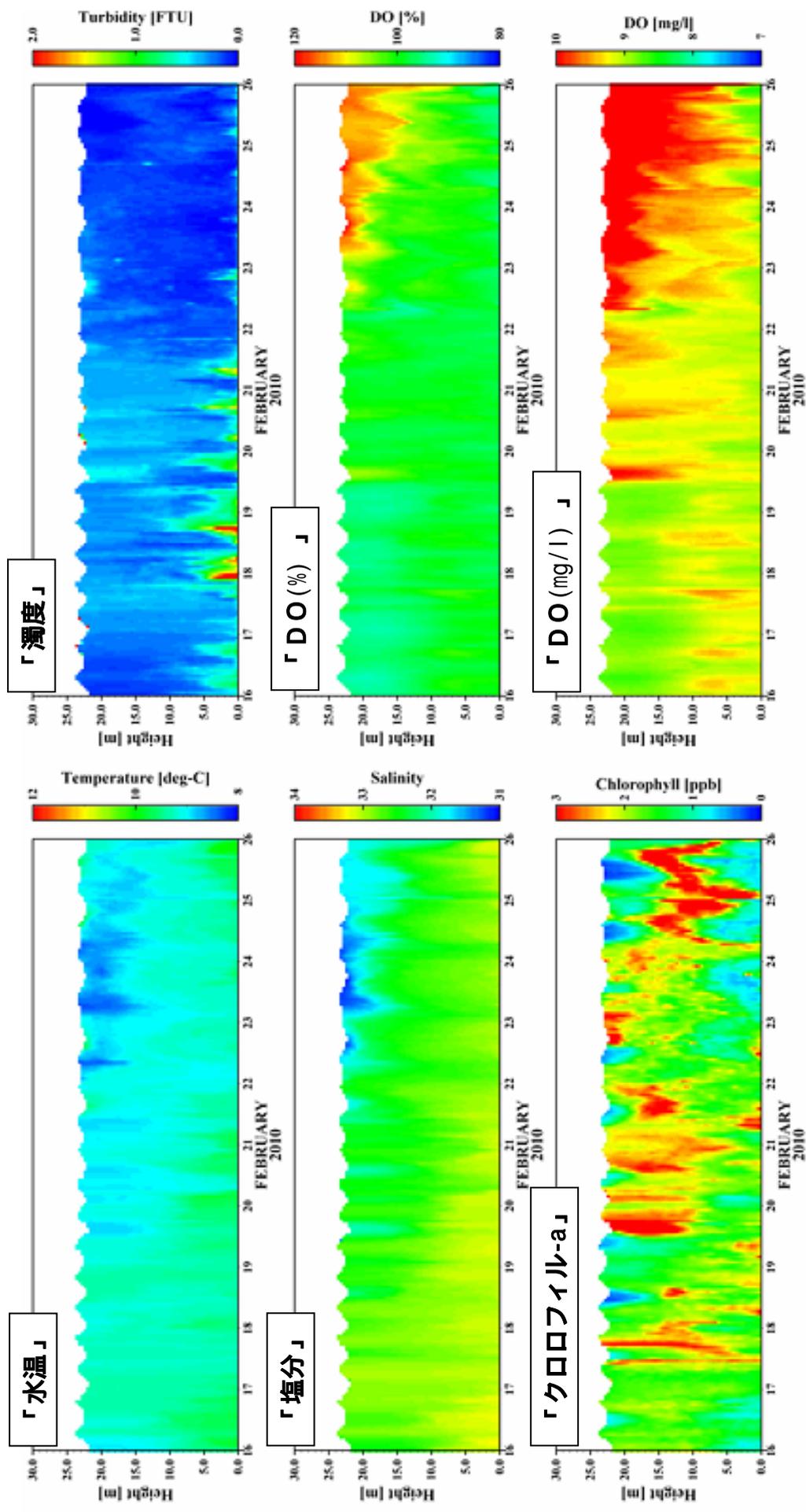
# 『湾中部（伊勢湾4号灯標）』試験観測結果

【観測期間：平成22年2月16日～26日】

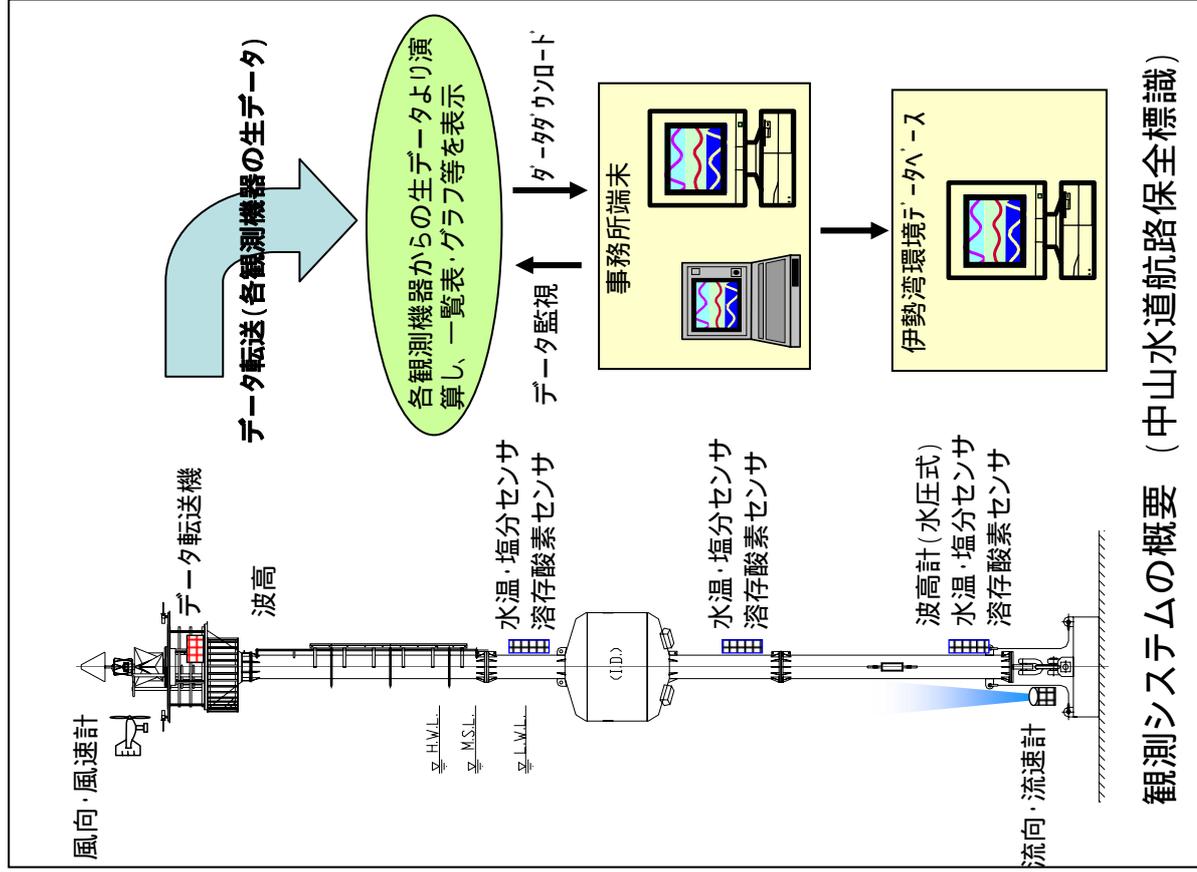


# 『湾中央（伊勢湾4号灯標）』試験観測結果

【観測期間：平成22年2月16日～26日】



# データの公表



中山水道航路において、取得されたデータは平成21年3月から「伊勢湾環境データベース」でリアルタイムに見ることができます。

今回設置された3地点においては、平成22年度から取得データを公表する。

一般の人々にも手軽に活用してもらえようように、携帯電話でも基本情報が閲覧できる「モバイルサイト」の公開も同時に実施する。

伊勢湾再生に資する研究・開発にも活用していただけるよう、観測データをリアルタイムで愛知県水産試験場、三重県水産研究所にも送信する予定。

## 『公表方法』

- ・「伊勢湾環境データベース」  
<http://www.isewan-db.go.jp/>
- ・「携帯モバイル」  
<http://www.isewan-db.go.jp/mobile/index.asp>



# 取得データの活用

平成21年度

モニタリングポストデータを活用したシミュレーションの開発

伊勢湾シミュレーター(ver.0.1)の完成

- ・現在の知見を出来る限り反映した次世代モデルであり以下の特徴がある。
  - Full3Dモデルの導入
  - (青潮(苦潮)現象の再現や深掘跡の埋戻し効果の検証が可能)
  - 生態系モデルに微生物や原生動物モデルの組み込み
  - (物質循環のより厳密な再現が可能)
  - 豊富な現地調査データによる定性・定量化、再現性の検証

伊勢湾シミュレーターの再現性検証に必要な環境データの取得

24時間連続水質監視システム  
(モカングポスト)の設置

海洋環境船「白龍」等による水・底質調査の実施

平成22年度以降

『干潟・浅場等造成計画』の作成

伊勢湾シミュレーターによる各施策効果の検証

伊勢湾シミュレーターの  
・再現性向上  
・精度向上

観測データの取得

# 【沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成】

## 『広報・啓発』

【岐阜県農政部】

### 第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～の取り組み

#### 1. 目的：

初の河川大会として「清流が つなぐ未来の 海づくり」を大会テーマに、森・川・海とつながる水の循環の再認識と上下流連携による水環境・自然環境の保全の重要性について、全国に向けメッセージを発信する。

#### 2. 過年度までの取り組み状況

- ・ 平成20年3月 岐阜県が、第30回全国豊かな海づくり大会の開催地に決定
- ・ 平成20年9月 大会会場地が決定（岐阜市、関市）
- ・ 平成20年11月 第30回全国豊かな海づくり大会岐阜県実行委員会設立

#### 3. 今年度の取り組み状況

- ・ 東海三県一市連携による伊勢湾森・川・海のクリーンアップ大作戦（平成21年5月～7月 県内参加者数 約28万人）
- ・ 1年前プレイベント「ぎふ海づくりフェスタ」の開催（平成21年6月13日（土）、関市、参加者数 63,400人）
- ・ 上下流をつなぐ回遊旗リレーの実施  
降海リレー（10月～12月）、遡上リレー（平成22年2月～4月）  
県内の森を水源とする8流域、6県80市町村参加
- ・ 作品（作文、絵画、習字）コンクールの開催  
応募総数 作文1,752点、絵画2,333点、習字9,833点
- ・ 「水の子ども会議」の開催 136小学校



#### 4. 今後の予定

- ・ 第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～の開催（平成22年6月12日（土）～13日（日））  
歓迎レセプション（6月12日 岐阜市） 式典、放流行事等（6月13日 関市）  
県内全42市町村でふれあい交流行事、サテライト行事を同時開催。  
参加者数（見込み）13万人
- ・ 三県一市が連携した「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」に参加予定。



写真 川と海のクリーンアップ大作戦  
揖斐川河川清掃  
大垣市(H21.10.18)



写真 プレイベントの様子  
(H21.6.13)



図 回遊旗(かいゆうき)

## 【多様な主体による協働・連携】

### 『協働・連携』

岐阜県農政部

#### ◆ 「農地・水・農村環境保全向上対策（共同活動支援交付金）」の実施

##### 1. 目的：

農地や農業用施設は食料生産はもとより、洪水防止、水源かん養、生態系の保全の役割を果たすなど、多面的機能を有している。この社会共有の財産である農地や農業用施設等を地域の共同活動により維持・保全する取り組みを支援する。

##### 2. 過年度までの取り組み状況

地域の多様な主体が参画した活動組織が地域の農地、農業用施設及び農村環境を維持・保全するために必要な取り組みを自ら考え、実施している。

##### 【平成20年度の実施状況】

- ・実施期間：4月～3月
- ・地区数：505地区
- ・内容：水路の草刈りや泥上げ、農業用施設の長寿命化に関する取り組み、生態系や景観など地域環境を保全する取り組みなど

##### 3. 今年度の取り組み状況

- ・実施期間：4月～3月
- ・地区数：506地区
- ・内容：水路の草刈りや泥上げ、農業用施設の長寿命化に関する取り組み、生態系や景観など地域環境を保全する取り組みなど

##### 4. 取り組み結果・評価

○実施状況並びに平成20・21年度に実施したアンケート結果から見た対策の評価

- ・共同活動への参加者が非常に多い（30万人越）
- ・約8割の活動組織が地域にまとまりができたと回答（コミュニティの醸成）
- ・保全の必要性についての理解（対策前は3割未満であったが、対策後には9割以上の活動組織において保全の必要性について理解されつつある。）
- ・農村環境の変化（地域の環境について良好な環境であると回答する組織が、対策前34%であったものが、現在は83%と回答）



水路の泥上げの様子



生き物調査の様子



農業用施設の機能点検の様子

## 【水質の改善・生物多様性の向上】 『水質・底質の改善 - 貧酸素水塊の発生低減 - 』

愛知県建設部

### 三河港 御津地区覆砂の実施

#### 1. 目的：

三河港御津地区の沖合いには、埋立工事の採土浚渫の結果生じた深掘れ跡があり、この海域での貧酸素水塊の発生等が苦潮の発生原因のひとつとなっている。この深掘れ跡の埋戻し後、良質な土砂で覆砂を行うことにより水質・底質改善の促進を図る。

#### 2. 過年度までの取り組み状況

- ・御津地区では、平成14年度から16年度に三河港の航路や泊地の浚渫土砂を利用して深掘れ跡の埋戻しが行われた。その後、海域環境創造事業等（16年度：県単独事業、17年度～：海域環境創造事業）により、神野西泊地等の浚渫工事から発生する良質な砂を活用して、覆砂を実施している。
- ・事業規模：46.8ha、 施工実績：28.0ha（H16～H20年度）

#### 3. 今年度の取り組み状況

- ・御津航路浚渫工事から発生する良質な砂を活用して、引続き覆砂を実施。
- ・実施面積：5.3ha

#### 4. 取り組み結果・評価

- ・来年度以降も引き続き、御津地区において覆砂を実施予定。
- ・覆砂をすることにより、底質の改善、溶存酸素濃度の回復、および底生生物の増加など一定の効果が認められている。（H20年度調査）



写真：三河港御津地区 全景



写真：覆砂実施状況

 覆砂事業箇所

## 【人と海とふれあいの場の保全・再生・創出】 『にぎわいのある海岸空間の創出』 愛知県建設部

### 海岸保全基本計画に基づく「海岸環境整備事業」の実施

#### 1. 目的

- ・海岸堤防の背後を防護するとともに、利用面・環境面にも配慮した海岸整備を図る。

#### 2. 過年度までの取り組み状況

- ・平成11年度 事業着手
- ・平成20年度まで 護岸工 L 750 m (全体計画 L = 1,150 m)  
突堤工 4 基 (全体計画 6 基), トイレ設置 1カ所  
植栽工 0.03 ha

#### 3. 今年度の取り組み状況

- ・植栽工 0.4 ha

#### 4. 取り組み結果・評価 (坂井海岸)

- ・防護対策はもとよりトイレ整備等の実施により、多様な海浜レクリエーションの場として提供できつつある。



トイレ整備状況



海岸利用状況

### 護岸の緩傾斜化の実施 利用の増進に資する施設の設置

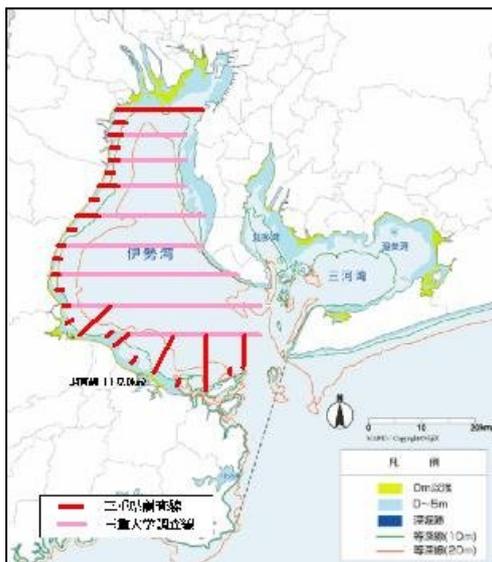
# 【伊勢湾再生のためのモニタリング】

## 『汚濁機構を解明するためのモニタリング』

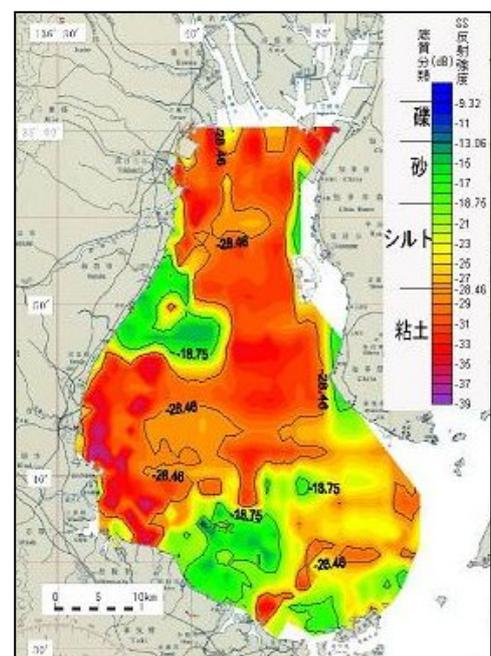
三重県環境森林部

### 伊勢湾沿岸域における底質調査

1. 目的：浅海域での底質の現況を面的に把握し、効率的・効果的な施策展開に活用するため、沿岸域における底質調査を実施。
2. 過年度までの取り組み状況
  - ・三重大学で、三重県、四日市大学との連携により、文部科学省の連携融合事業として、「伊勢湾再生研究プロジェクト（H19～H21）」に取り組み、平成19年度に伊勢湾の湾央部における底質判別調査を実施、底質の現況把握や貧酸素水塊の解明等に向けた研究を進める中、従来のポイント調査からセンサーを用いた面的な評価手法の有効性を実証し、底質判別調査により、従来の点評価から面的評価が可能となった。
  - ・しかしながら、三重大学の所有する調査船では、沿岸域における調査が困難であったため、沿岸域における底質調査は実施しなかった。
3. 今年度の取り組み状況
  - ・三重県として、三重大学の底質の面的評価の技術を活かし、沿岸域における底質調査を実施することにより、浅海域での底質の現況を面的に把握し、効率的・効果的な施策展開に活用できると判断し、沿岸域における底質調査を実施。
4. 取り組み結果・評価
  - ・従来の点（ポイント）評価による底質評価から、面的（エリア）での評価が可能。
  - ・今後、伊勢湾の状態評価や、施策・事業の検討などに活用。
  - ・研究機関と連携し貧酸素水塊の解明等に活用。

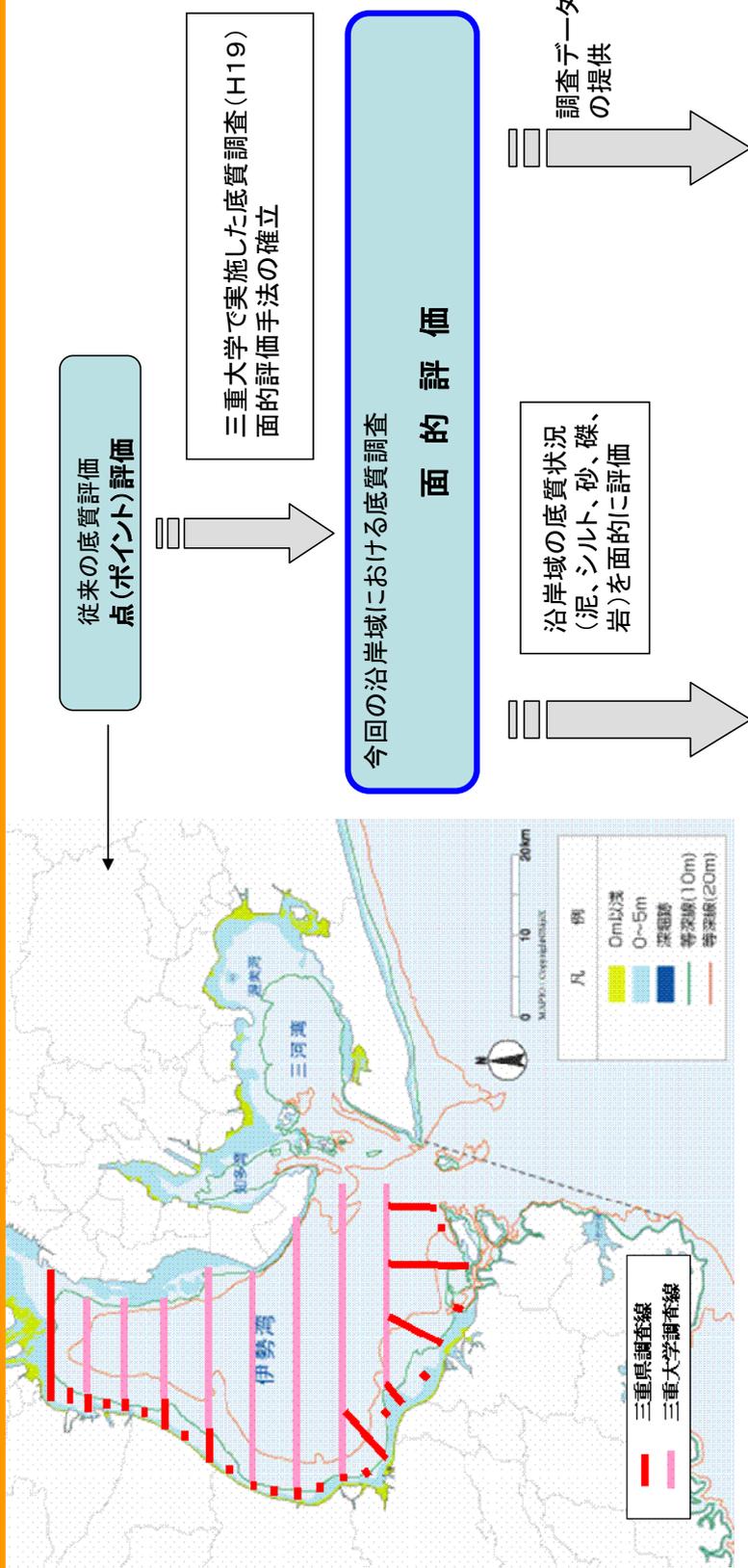


調査線図



底質状況分布図

①底質の面的評価技術の確立→②技術の浅海域への活用→③貧酸素水塊の解明→④施策展開



▼評価指標

- 評価指標  
・伊勢湾の  
状態指標としての活用

▼施策展開

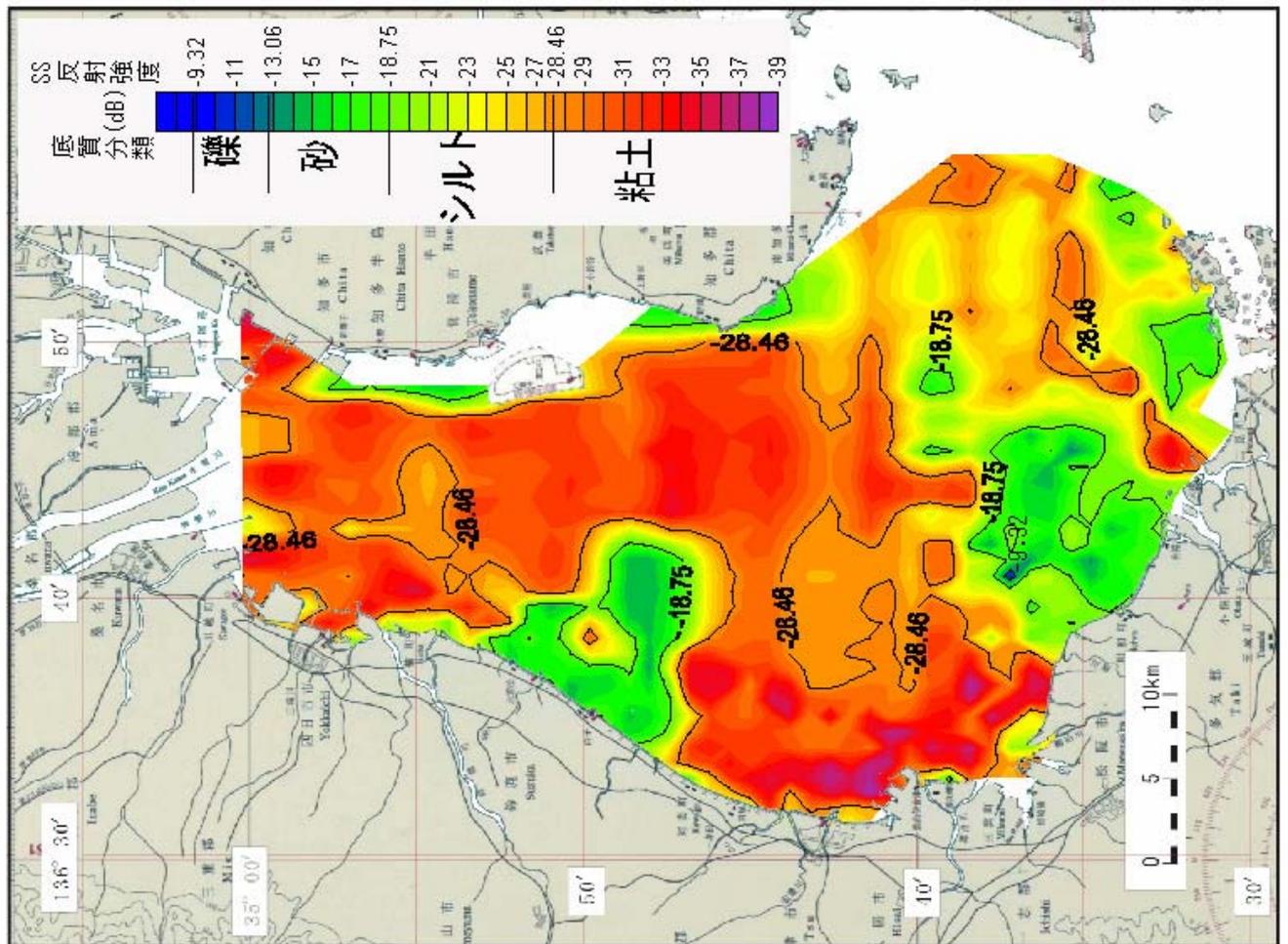
- 施策展開例  
ポイントでの詳細な底質調査+藻場、干潟の造成箇所の  
検討  
+アサリ等の資源管理に  
活用  
+海底耕耘、覆砂の計画に  
活用
- 貧酸素水塊等の解明に向けた調査  
底質調査や水質調査箇所の選定に活用

▼研究機関との連携

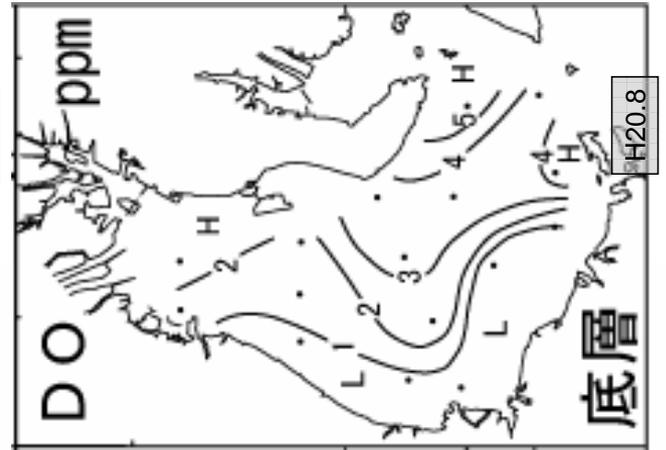
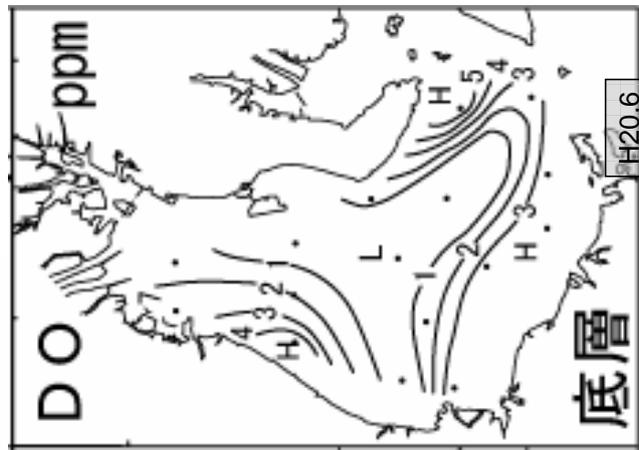
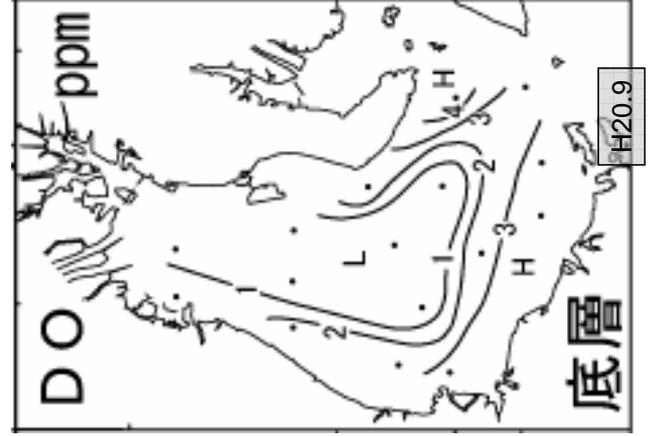
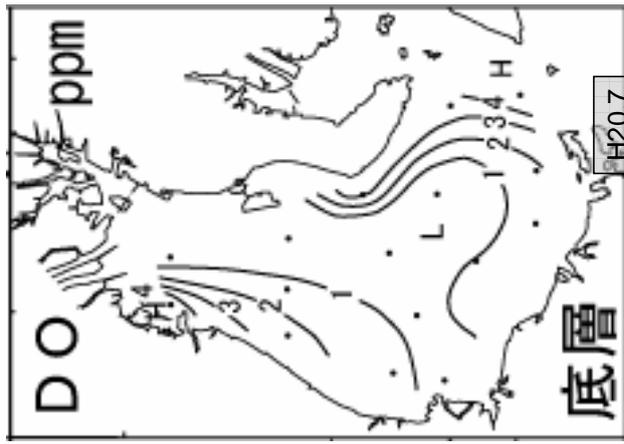
- 貧酸素水塊の解明・解消に向けた  
研究機関の連携した取組
  - ・浅海域+深層部の貧酸素水塊の  
発生メカニズム解明
  - ・三河湾データも含めて、対策等の  
フィードバック
- 水産研究所(保健環境研究所と連携)
  - ・底生生物の資源管理に向けた取組

底質状況分布図(2007年三重大学調査結果を含む)

\* 調査線の無い部分はデータを補間して作図



負酸素水塊の状況(H2O)



## 【多様な主体による協働・連携】

『協働・連携』

三重県政策部

### ～想いをかたちに～ 宮川プロジェクト

#### 1. 目的：

宮川流域での様々な活動を広く紹介すると共に、これらの活動に取り組む個人・団体が1年間をとおして「PLAN(計画) - DO(実行) - CHECK(検証) - ACTION(改善)」に取り組むことで、活動が充実・発展することを目的とする。

#### 2. 過年度までの取り組み状況

- ・「宮川プロジェクト活動集2008」の作成、活動主体に対し物品提供等の支援、「River Voice 清流宮川応援新聞」による広報、「宮川プロジェクト活動報告集2008」の作成、「宮川プロジェクト活動報告会2008」の開催(約380名参加)を行った。

#### 3. 今年度の取り組み状況

- ・「宮川プロジェクト活動集2009」の作成(H21.6)、活動主体に対し物品提供等の支援、「River Voice 清流宮川応援新聞」による広報(平成21年度は2回発行)を行った。
- ・「宮川プロジェクト活動報告集2009」を作成すると共に、H22.3.7に伊勢市立小俣図書館2Fホールで「宮川プロジェクト活動報告会2009」を開催する。

#### 4. 取り組み結果・評価

- ・「宮川プロジェクト活動集2009」への掲載活動は69件(平成19年度)・92件(平成20年度)・94件(平成21年度)と増加し、活動の輪が広がった。



図：宮川プロジェクトの仕組み

第6回伊勢湾再生推進会議資料

# 宮川流域ルネッサンス事業

～想いをかたちに～ 宮川プロジェクト の概要

# 宮川流域ルネッサンス事業の流れ

ビジョン

流域宣言、基本理念、  
めざすべき宮川流域像を策定

基本計画

平成22年度を目標年度とし  
て施策の方向性などを策定

第3次実施計画

(平成19～22年度)

想いをかたちに！

第2次実施計画

(平成15～18年度)

協働の仕組みづくり

第1次実施計画

(平成11～14年度)

主として行政の取組

# 宮川流域ルネッサンス事業の理念

## (流域宣言)

- ・ 人と自然の共生
- ・ 上下流の交流・連携
- ・ 住民・企業・行政のパートナーシップ（協働）

## (基本理念)

- ・ 清流や森林、渓谷、干潟など豊かな自然の保全・再生
- ・ 豊かで清らかな川の流れを甦らせる健全な水循環の構築
- ・ 川とともに育まれてきた歴史・文化の継承・発展
- ・ 自然環境と調和した魅力ある流域づくり

# 協働による多彩な取組

## 上中下流域で進む整備事業

宮川用水第二期農業水利事業

田丸城址の遊歩道整備

高度処理型の浄化槽を整備

森林環境創造事業

宮川ダム選択取水設備

「川の駅」「海の駅」整備

アユの生態系解明調査

エコミュージアムセンター  
「宮川流域交流館たいぎ」整備



# 「～想いをかたたちに～ 宮川プロジェクト」とは

宮川流域ルネサンス事業  
宮川プロジェクトの仕組み

## ～想いをかたちに！～

流域住民・企業・行政の、  
宮川流域への「想い」を実現  
させるため、この仕組みで共  
に活動を盛んにし、協働の輪  
を広げていきます。

流域で活動する人々

## ACTION (改善)

翌年度に向けて振り返り  
・さらに活動を充実させるための改善  
・他の活動事例から得たヒントを活かす  
・交流で生まれた連携を活かす

## 協力・連携

エコミュージアム  
センター

＜取組の一部の紹介＞

## CHECK (検証)

活動報告会を開催  
・取り組んできた活動を報告  
・他の活動グループと交流  
・活動成果の「きっかけづくり」

## PLAN (計画)

宮川プロジェクト活動集  
の作成

・活動概要、年度目標を記載  
・活動を広く紹介  
・仲間を集める手段としても活用

宮川流域ルネサンス協議会

## DO (実行)

各々が多彩な活動を展開  
・住民・企業・行政が活動実施  
・連携しながら多様な取組を展開



「宮川プロジェクト活動集」



宮川流域案内行事  
「夢・花フェスタIN朝霧山麓」



「川の生き物観察会」



宮川流域  
エコミュージアム講座  
「源流を探ろう」

# 想いをかたちにプロジェクト

～ 活動が広がり、定着するために～



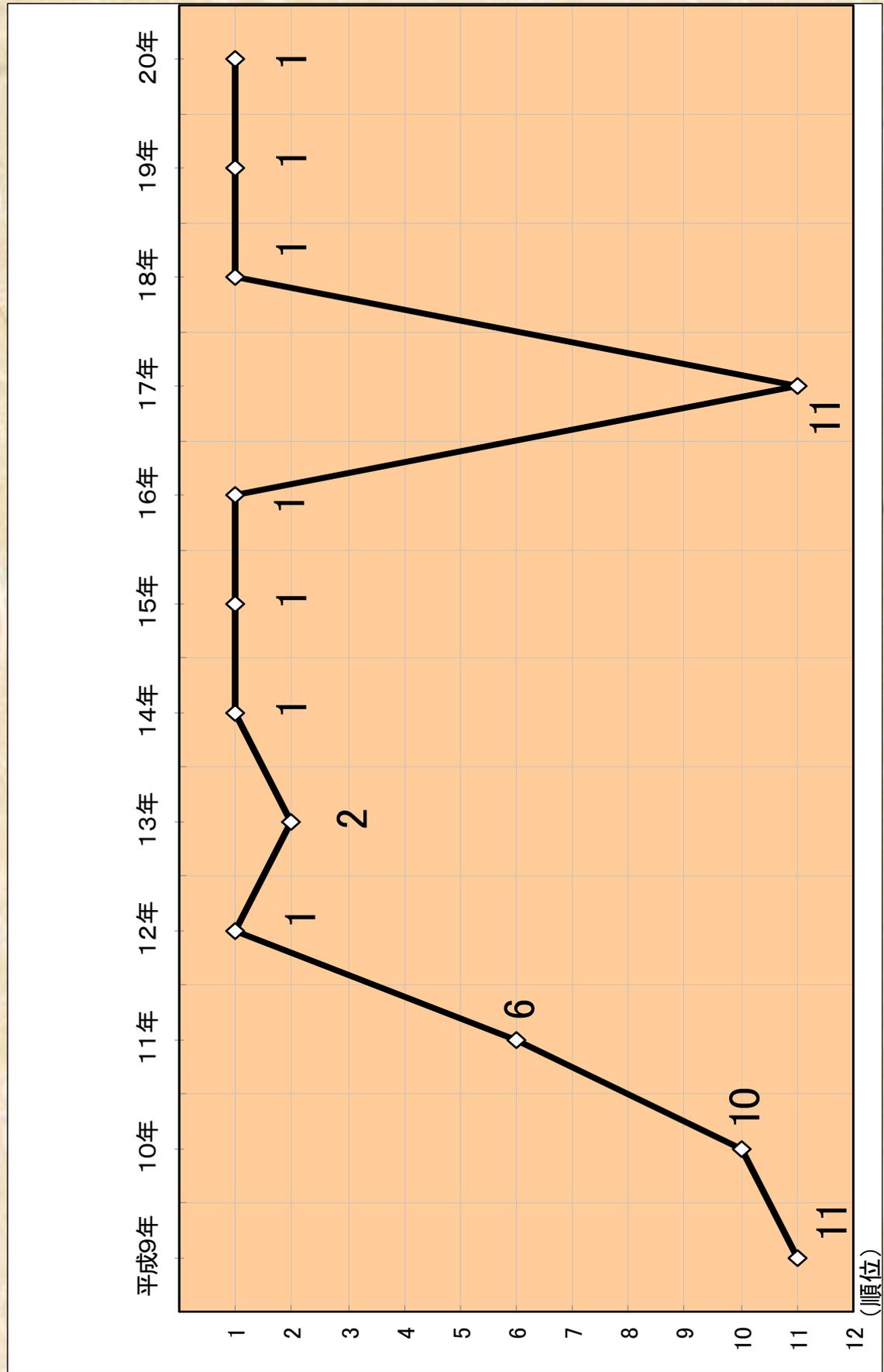
宮川プロジェクト活動集

“想い”を“かたち”にするための  
みなさんの活動を応援します！！

## 「守ろう清流！宮川流域いっせいチェック」の取組概要

活動名	守ろう清流！宮川流域いっせいチェック	
目的	対象	流域住民で50ポイントの水環境調査で守る。流域の子ども達。
	意図	宮川を日本一の清流に
内容	<p>1. 日本一の清流宮川を守り育てるため、流域の住民がボランティアで宮川流域の50ポイントで「水環境調査」を実施し、その調査結果をホームページなどで公表している。全国いっせい調査にも参画している。</p> <p>2. 小中学校からの依頼に応じ、メンバーを講師として派遣し、総合的な学習の時間等で、川でのパックテストや水生生物観察等を実施し、環境保全の大切さを伝えている。</p> <p>3. 流域の清掃活動として「クリーン小作戦」を実施するとともに、国土交通省三重河川国道事務所が行う「川と海のクリーン大作戦」等にも参加している。</p> <p>4. 調査結果等を基に、「日本一美しい川」をめざして毎月ワークショップを開催している。</p> <p>5. 流域内外との交流や情報交換、メンバーによる勉強会等を実施し、情報の共有を図っている。</p>	
達成目標	国土交通省が行う全国一級河川水質ランキングで1位をめざす。(継続する。) ひとりでも多くの方々に宮川について関心を持っていただく。	
課題	活動が中心メンバーに偏り、流域50ポイントの全メンバーとの連携・協働が進んでいない。活動を流域住民の宮川に関する意識の醸成に結びつけることが難しい。	

# 宮川の全国一級河川水質現況ランキングの順位



ありがとうございました。



## 【陸域汚濁負荷削減に向けた施策】

### 『その他関連事業』

名古屋市緑政土木局

#### 緑化地域の指定

##### 1. 目的

都市緑地法に基づき、一定規模以上の敷地で建築物の新築等を行う場合に定められた面積以上の緑化を義務付け、市街地などにおいて効果的に緑を創出していく。

##### 2. 過年度までの取り組み状況

- ・平成19年12月26日 都市計画審議会議決
- ・平成20年 3月27日 緑のまちづくり条例一部改正
- ・平成20年 5月 緑化率適合証明等申請書の受付開始
- ・平成20年 7月 1日 緑化施設評価認定制度「NICE GREEN なごや」及び自己宣言型緑化プログラム「TEAM GREEN なごや」の施行
- ・平成20年10月31日 緑化地域制度の施行

##### 3. 今年度の取り組み状況

- ・平成21年 7月 1日 名古屋市民間施設緑化支援事業の受付開始

##### 4. 取り組み結果・評価

- ・平成21年12月31日現在 申請件数 1,637 件、敷地面積計 3,515,520 m<sup>2</sup>、緑化施設面積 556,980 m<sup>2</sup>、平均緑化率 15.8 %

項目	集計件数	面積 (m <sup>2</sup> )	割合 (%)
樹木	1,002	190,093	34
芝・地被植物	1,361	333,871	60
花壇	97	4,079	1
池・水流	2	20	0
屋上緑化	100	20,292	4
壁面緑化	58	2,547	0
園路・土留	333	6,077	1
合計	2,953	556,979	100

表：緑化施設の内訳

## 【多様な主体による協働・連携】

### 『協働・連携』

名古屋市緑政土木局

#### 堀川市民調査

##### 1. 目的

木曽川から清浄な流水を導水することによる堀川浄化社会実験の効果を検証するにあたって、行政だけではなく利用者である市民の感覚に基づいた調査及び評価を行うことにより、市民の水環境の改善に対する意識の更なる向上をはかる。

##### 2. 過年度までの取り組み状況

堀川の水環境について、水の臭いや見た目等の項目について市民の視点で調査を行うための「堀川1000人調査隊2010」を結成し、導水期間の3年間を半年毎、6つのステージに区切り調査を行っている。

- ・調査隊結成式・・・平成19年4月22日
- ・第1回調査隊会議・・・平成19年9月 8日
- ・第2回調査隊会議・・・平成20年2月16日
- ・第3回調査隊会議・・・平成20年9月28日
- ・第4回調査隊会議・・・平成21年2月28日

##### 3. 今年度の取り組み状況

- ・第5回調査隊会議・・・平成21年9月27日
- ・第6回調査隊会議・・・平成22年2月27日（予定）
- ・調査隊登録数（平成21年12月31日現在）1,749隊 14,059人

##### 4. 取り組み結果・評価（調査隊会議での主な意見）

- ・導水等による浄化の効果と考えられる変化が確認された。
- ・「春から初夏」は「秋から初冬」より水質が悪いことがわかった。
- ・堀川の色々の現状とその印象が少しずつわかってきた。
- ・水草が繁茂している区間が増えた。
- ・生き物は堀川を生息・生育の場、移動の経路として利用していることが分かってきた。



写真：堀川1000人調査隊2010結成式の様子



写真：市民による水質調査の様子